病気がちの父に代わり、
姉と兄の働く鉱山に目覚めてから
さまざまな方々に導かれて俳句に出合った。
文学少女とは言えず遊び好き。
この事は大いなる後悔であるが
社会科が好きで中国のシルクロードを
歩くことを夢見ていた中・高校時代。

平成７年のときに、
鳥居おさむ先生のシルクロードの句に出合い
想いは募るばかり。
平成 13 年、「生き生き塾」の方々と敦煌まで７日間の旅、
その先に憧れ続ける。
平成 19 年　、夢が現実になる誘いが寺友からあり狂喜の旅行となる。
それから４年、旅行中お世話になったった方々へ、
これが俳句のお披露目となる。

ろんど入会 16 年、このように長く続いた趣味はない。
これまで、ご指導くださいました
諸先生方、諸先輩の皆様方、句友の皆様、亡夫と家族へ
謹んで感謝と御礼を申し上げます。

2011 年 4 月吉日
吉田　克美

ラマダンや街騒遠く深眠り

秋夕日ラクダと共に染まり行く

雨台風晴れ生臭き首途かな

秋暁や人湧き出でて日の出待つ

崑崙山脈雪形に師の秋の声

スカーフの色とりどりや棉を摘む

ゴビ沙漠若木ひらひら涼新た

秋暑し蜃気楼衝き西域に

ハミ瓜の冷え食べ尽し絹の道

バザールの男の皓歯秋高し

カレーズの玻璃の人波秋湿り

ラマダンや市への道の群ひつじ

黍嵐貨車四十両の一直線

合歓は実に大路行き交うロバのバス

タクラマカン真紅に乾く唐辛子

野分来る砂塵の憩うポプラ林

クチャを発つ朝顔千個に見送られ

秋霞崑崙の陽は月の色

天山山脈足下雲巻く秋の暮れ

銀の太陽オアシスの秋桜

玉の国拾っては捨て鰯雲

タリム河橋秋風に乗りワルツかな

絹の道青空トイレを秋うらら

玄奘の足下幸あり蟻地獄

売られゆく羊の群の露けしや

玉磨く節桿指や月満ちる

初紅葉女着飾る牛の市

値切る声誰もが和して秋日和

一対を羨して機中月と星

出迎えの虫の滲みて旅終わる

Tokyo Mnemosyne 東京ムネモシュネ

Tokyo Mnemosyne e-books
http://haikustock.com

A4用紙に印刷して2つ折りにします。右端をホッチキス留めするとA5判の小句集に仕上がります。
個人で楽しむ範囲でのダウンロード、印刷以外の無断転載・コピー・流用は一切禁止します。